

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315	
法人名	有限会社 政経	
事業所名	グループホーム尾西蓮池の家 1号館	
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2	
自己評価作成日	令和2年7月30日	評価結果市町村受理日 令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2373700315-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室	
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地	
訪問調査日	令和2年9月6日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>“・外出支援で喫茶店や買い物、散歩など利用者様の意に沿った支援を行っています。 ・お食事は3食手作りで皆様方、楽しみにされています。 ・カラオケの設備があり、2号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指しています。 ・定期的にイベントを開催しています。”</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新管理者となって事業所だより(蓮池だより)が手書きからパソコン制作となるなど小さな変化はあるも、8年勤務で本事業所のことを知り尽くしているだけに概ね変わらずこれまで通り穏やかな様子が覗えます。職員は准看護師が3名、計画作成担当者6名、介護福祉士も多数いますが、年齢は20~30代が僅かに3名、大半が50~70代で最高齢は78歳です。イベント係、朝食献立係、物品請求係など役割を決めており職員の責任を明確にさせてはいますが、年齢からの体力不足や勤務経験の長さなどから利用者本位に尽くせない面があることは課題として明確なため、職員の自省と管理者の手腕によりさらなる前進が期待されます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。	事務所内に掲示のうえ職員会議などで意識づけが成されている理念「優しく、穏やかに静かな介護をめざす」は、利用者に近い年齢の職員が多いためか、目に映る情景もまったくその通りです。課題の「押れあい」は、新管理者が職員に自律を求めて今年度の目標としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れがあります。中学校、地域の行事にも参加しています。ボランティアの方々に参加協力して頂いて、地域交流拡大を続けます。	昨年の秋まつりでは獅子舞にお捻りを渡したり、中学校の運動会に招かれ応援するなどの地域交流がありましたが、本年の秋は難しいことが予測され寂しい限りです。それでも、子ども会の廃品回収に協力する機会や西瓜・キュウリ・ささげなどの野菜のおすそ分けは続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援を地域の人々が気軽にホームにみえる様に日頃の行事を通して顔なじみになり知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告や検討事項の経過報告を行っています。施設の看護師や消防署の訓練講話、認知症高齢者医療等職員が研修講師となって更なるサービス向上に努めています。	3月からは管理者が2ヶ月分の活動内容を市役所介護福祉課に持参、地域包括センターにも郵送しています。5月、7月もコロナ対策として同様の方法をとって、地域交流の場として改めて大切なものであることを管理者も実感しています。	条例下の制度でもあるため、返信はがきやFAX用紙を同封したり、電話聴取してメンバーの意見を吸い上げることを期待します(回覧板が回ってきていないため、地域情報は民生委員からのものが大きいこともある)。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者や情報交換や入居者の相談を市に訪問して話し合う協力体制を築いている。	集団指導は中止ですが、介護福祉課にはこれまで通り事故報告書を届けるなど月1回程訪問しており、窓口に制限はかかっていません。介護相談員の訪問は年数回あり、本件おいても休止のお知らせはないものの、玄関から先に入ることは法人の決まりで辞退となる予定です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は共有意義の基に身体拘束しない介護を全職員に周知意識し実地しています。	身体拘束廃止未実施減算に係る取組みはつつがなく推進されています。職員が業務中心となりがちで、「座って」「待って」で返してしまい、利用者が納得できるやりとりができないことは悩ましいものの、打開策は見つからず管理者が目にしたら間に入ることで是正しています。	改善向上できにくい職員には一度時間をとり、ロールプレイングで「待って」「座って」と言われる側の役を体験してもらうことも検討ください。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加し、学んだことで職員会議で発表し、日頃の介護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。ホーム便りに利用者の消耗品の購入を依頼し家族の訪問の機会を作り意見を収集しています。	多い人は週1回の面会がありますが、便りを通じて本人の消耗品購入を依頼して来所頻度があるよう工夫しています。家族には快く対応してもらえ、小遣い補充や衣替えにも手間暇を惜しまず協力的で管理者も助けられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・月1回職員会議で出た意見や個人的な提案を聞いて運営に反映している。	職員は準看護師が3名、介護福祉士も多数いますが、年齢は20～30代が僅かに3名、大半が50～70代で最高齢は78歳です。毎日朝礼と月1回の職員会議をおこなうほか、管理者が都度職員に声をかけて様子など聞いています。	同僚が上役になったことでメリット、デメリットそれぞれあると思われるため、1名ずつ昼食を一緒に摂るなど、個別面談という形でなくても1対1で話し合う場をもつことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、各自向上心を持って働ける様に職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人が開催するAA課程や外部の研修に参加したり、職員間で話し合ったりして一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの、稲沢 重本の家と交流を図り、研修会議等に参加して情報交換を行っている。月に1度の法人の研修に参加して他施設の職員とも交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。職員が本人に受け入れてもらえる様に、困った事・不安・要望を聞き、関係作り心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかで活気のある生活が出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら利用者様の日々の生活の様子や職員の思いを伝える事により本人を支えていく為、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けるのが困難な状況なので、ホームを訪ねる方々には、利用者様と寛いで過ごせるように呈茶など受け入れの対応に配慮して関係継続を支援している。	コロナ対策で家族面会は電話対応となっておりますが、やむを得ない場合は「検温・マスク・消毒・短時間」の条件を以て柔軟に対応しています。外出や交流はできず馴染みの喫茶探訪も遙か昔のことですが、毎朝10時のコーヒータイムは変わらず、室内でできることは継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	通常時は全館で午前中はラジオ体操・歌を行い午後からはカラオケ等レクリエーション、外出支援を職員も一緒に行い利用者同士の関係が円滑になる様に働きかけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、気軽に遊びに来て頂けるよう、相談や支援に努め、継続的な付き合いが出来る様に心掛けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中で利用者様の意向を把握した時には、詳細記録に残し意向に沿えるか等、話し場の場を設け介護に反映できるよう検討しています。	3ヶ月毎に交代とする居室担当を定め、全体を見守りつつも一人の利用者の変化に注視する仕組みをつくっています。その中で要望や想いを掴み、申し送りノートや詳細記録に残すことで情報共有とし、次の居室担当者へバトンを渡しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に昔の話を聞いたり、ご家族に同居、訪問時に話を聞いて、その情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の状態の把握に努め、日常生活の中で可能性を探り出し、伸ばす方向に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今の生活をより良くするためにご本人や家族、その人に関わりを持つ人たちが意見を聞き、現状に添う様に担当者会議を開き、見直しを行い、介護計画を立てます。	業務日誌・介護記録・詳細記録・申し送りノートと日々の重層的な記録を基にカンファレンスを実施、計画作成担当者が毎月チェックのうえ「モニタリング実践記録表」の作成に至っており、計画作成担当者が6名もいる事業所だけあって正統派の手続きを踏んでいます。	サービス担当者会議を家族を誘ってできないか(または次回の面会日を聞いて、それに合わせる)、検討してみることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録をつけ、気付きがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に介護記録をつけ、気付きがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らしが続けられる様に、運営推進委員会を2か月に1度開き、区長・民生委員・市の職員と意見交換する機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は、ご本人や家族の希望される医院にして頂いています。通院介助は家族の協力により行っています。生保の方は職員で対応させて頂いています。	26名が月2回の訪問診療がある協力医に変更、在宅の頃からの医院を続ける人は1名のみです。各ユニットに准看護師が配され、「受診の立合い」「医師への申し送り」「診察結果の記録」「薬の管理」が一貫しておこなわれているという手厚い医療体制が内部で確立しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や行動の変化に気を付け早期発見、対応に心掛けています。変化のあった場合はバイタルチェックを行い、適正に受診等対応させて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、安心して治療出来るようご家族の相談に応じています。また病院関係者との情報交換にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	万が一に備え、ご家族や、キーパソンの意向を聴取させて頂いています。ご本人やご家族の意向に沿った終末期を過ごしていただけるように医療機関と連携を図りチームで支援しています。	看取りはおこなわないこととし、「口径摂取ができなくなった」段階で医療機関を紹介したり、移設をお願いしています。これらの段取りは契約時に家族に説明、同意を得ており、予め特別養護老人ホームへの申し込みをしている人もいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いろいろな場面を想定して日々の業務の中で起こり得る事故、急変等に対して、初期対応の仕方、応急処置の仕方を定期的実践、訓練して確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害等の災害に対し、消防署の協力の下、昼夜を想定し訓練している。訓練内容を推進会議等で地域の人々とも共有しています。また、職員間でも役割分担をし、利用者が安全に避難できるように努めています。	主に夜間における火災を想定、経路確認・誘導方法・通報装置をメニューとした防災訓練を年3回実施して、内1回は消防署の立ち合いが叶っています。近所に住む職員もあり、距離も考慮して役割も決めてありますが、地域の訓練への参加実績はありません。	木曾川が近くにあり水害の心配もあります。また事業所は平屋でもあり、昨今の異常気象も鑑み、風水害マニュアルを改めて精査することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、言葉使いに注意し、プライドを傷つけない様、利用者の立場に立った介護を心掛けています。	トイレに置く消耗品はイニシャル表記としたり、名前は「～さん」づけで呼ぶといった基本を順守するほか、職員が自己都合で介助方法を替えたいと申し出てきたときは、「利用者の立場、気持ちに沿っていない」との管理者の判断で退けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者との会話を大切にし、何気ない言葉の中からも本人の思いを見つけだし、希望に添える介護に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務のペースはありますが、利用者の健康、その日の気分状態を配慮した、ゆとりのある介護を目指して対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな衣類でお洒落を楽しんだり、移動理容を利用して、気分転換を図っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に1度嗜好調査を行い、一人ひとりの好みを知り、同じ食材でも味付けやメニューを変え、好みに沿える様に努めています。また、手伝いのできる方には、能力に応じた手伝いを職員と一緒にお願いしています。	食事は手作りです。ユニットで主菜、副菜、汁物を分担で3ユニット分作り、お互い分けあうという合理的な方法をとっています。1ヶ月毎のローテーションのため、他のユニットの味に親しむメリットもあります。食器洗いや皮むき、おしぼりたたみ等、利用者も手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食個別に食事の摂取量を記入し、健康や状態観察を行っています。副食形態も、普通・荒刻み・極刻み・ミキサーと状態に応じ提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きは自主的に行う様に声掛けしています。自力で口腔ケアができない方は、職員が口腔ケアの介助を行っています。義歯など使用している方の洗浄剤は職員が介助し、清潔に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人々の排泄記録を取り、排泄パターンを把握しオムツ類は出来るだけ最小限に使用するようにしたり、適切な声掛けや誘導方法について職員間で話し合いを重ね、自立排泄が出来る様に支援をしています。	平均介護度3と緩やかに重度化に向かう中、職員が声をかけずともトイレに向かうのは3割ほどです。声かけは排泄チェック表に基づいており、入院で車いすが必要となった人も少しずつ運動量を増やして筋力をつけ、トイレに座ることができるようになったケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便が望ましいので、水分・運動・食べ物によって排便を促しています。排泄記録を活用し、便秘が続くようであれば早めの対処を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入る時間帯は一人々々に応じてゆっくりに入って頂き、季節を感じる柚湯、菖蒲湯等で安楽を味わって貰う様に心掛けています。	浴槽をまたげなくなると、足浴しながらシャワー浴の形式としていて、本人にも職員にも無理はさせません。同性介助の希望にも応え、ほとんどの利用者は職員とおしゃべりを楽しんでいます。また冬至の柚子湯にも取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、気持ち良く入眠できるように支援しています。高齢の方が多いため、午睡や休息の時間も設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に手渡しして確実に服薬できたか確認し、体調の変化が無いように観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々の楽しみをして頂くように、その人の出来る事はお願いしてやって頂き、生活の張りを持って貰うように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時々喫茶店などへの外出は行っていますが、利用者が高齢化し、なかなかほかの外出支援ができていませんがこれからは、家族の方がたとも会話を重ね、少しずつでも希望に添える様に、取り組んでいきます。	事業所の駐車場を散歩して気分転換を図るほか、独歩が可能な人は「降りないミニドライブ」をおこなうのみで、基本外出はありません。それでも何とか地元行事を見せてあげたいとして、6月の御裳神社「尾西あじさいまつり」には車から降りず、眺めるだけですが出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を施設で預かり管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや電話をかける時は、本人の希望に応えるよう支援しています。利用者の近況情報は施設のお便りを使い、担当者が家族に伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、その都度、季節に合った物を飾ったりしています。写真入れ自由に見たり、花を飾ったりして居心地よく過ごして貰っています。また、日常的にユニット間の交流も行っています。	掃除はこれまで通り職員が掃除機とモップがけをおこない、換気はコロナ対応で増やして朝30分間全開としています。また共用空間の壁には黒の台紙をバックに鮮やかな色の折り紙でトンボや花を飾りつけてあって、「季節を感じる」ように手配くださっていることが伝わります。	感染症対策の一環として温度、湿度計を設置のうえ、人肌センサーではない温度・湿度管理があることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	不定期ではあるがテーブル席や入浴順を変更し、利用者間での交流がもて、気持ちよく過ごせるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て貰い、生活の延長をして頂き、室内に家族の写真や利用者の手作り作品を飾り、居心地よく過ごされるように、配置にも工夫しています。	洗面化粧台・ベット・カーテン・エアコン・カーテン付きクローゼットが予め備え付けられているためか、特別な物は持ち込まれておらず、家族写真や手作りの作品といった小物が並んでいる居室が大半です。車いすでの出入りがスムーズとなるようにベットの位置を変える事もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ラジオ体操や外での行事ができる広いスペースがあり、自由に散歩したり、畑を見に行ったりして安全に活動できる環境を作っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム尾西蓮池の家 2号館		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	令和2年7月30日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2373700315-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>“・外出支援で喫茶店や買い物、散歩など利用者様の意に沿った支援を行っています。 ・お食事は3食手作りで皆様方、楽しみにされています。 ・カラオケの設備があり、2号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指しています。 ・定期的にイベントを開催しています。”</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新管理者となって事業所だより(蓮池だより)が手書きからパソコン制作となるなど小さな変化はあるも、8年勤務で本事業所のことを知り尽くしているだけに概ね変わらずこれまで通り穏やかな様子が覗えます。職員は准看護師が3名、計画作成担当者6名、介護福祉士も多数いますが、年齢は20～30代が僅かに3名、大半が50～70代で最高齢は78歳です。イベント係、朝食献立係、物品請求係など役割を決めており職員の責任を明確にさせてはいますが、年齢からの体力不足や勤務経験の長さなどから利用者本位に尽くせない面があることは課題として明確なため、職員の自省と管理者の手腕によりさらなる前進が期待されます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れがあります。中学校、地域の行事にも参加しています。ボランティアの方々に参加協力して頂いて、地域交流拡大を続けます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援を地域の人々が気軽にホームにみえる様に日頃の行事を通して顔なじみになり知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告や検討事項の経過報告を行っています。施設の看護師や消防署の訓練講話、認知症高齢者医療等職員が研修講師となって更なるサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者と情報交換や入居者の相談を市に訪問して話し合う協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は共有意義の基に身体拘束しない介護を全職員に周知し意識し実地しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加し、学んだことで職員会議で発表し、日頃の介護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。ホーム便りに利用者の消耗品の購入を依頼し家族の訪問の機会を作り意見を収集しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・月1回職員会議で出た意見や個人的な提案を聞いて運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、各自向上心を持って働ける様に職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人が開催するAA課程や外部の研修に参加したり、職員間で話し合ったりして一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの、稲沢 重本の家と交流を図り、研修会議等に参加して情報交換を行っている。月に1度の法人の研修に参加して他施設の職員とも交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。職員が本人に受け入れてもらえる様に、困った事・不安・要望を聞き、関係作りに関心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかで活気のある生活が出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら利用者様の日々の生活の様子や職員の思いを伝える事により本人を支えていく為の、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けるのが困難な状況なので、ホームを訪ねる方々には、利用者様と寛いで過ごせるように呈茶など受け入れの対応に配慮して関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	通常時は全館で午前中はラジオ体操・歌を行い午後からはカラオケ等レクリエーション、外出支援を職員も一緒に行い利用者同士の関係が円滑になる様に働きかけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、気軽に遊びに来て頂けるよう、相談や支援に努め、継続的な付き合いが出来る様に心掛けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中で利用者様の意向を把握した時には、詳細記録に残し意向に沿えるか等、話し場を設け介護に反映できるよう検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に昔の話を聞いたり、ご家族に同居、訪問時に話を聞いて、その情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の状態の把握に努め、日常生活の中で可能性を探り出し、伸ばす方向に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今の生活をより良くするためにご本人や家族、その人に関わりを持つ人たち意見を聞き、現状に添う様に担当者会議を開き、見直しを行い、介護計画を立てます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録をつけ、気づきがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に介護記録をつけ、気づきがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らしが続けられる様に、運営推進委員会を2か月に1度開き、区長・民生委員・市の職員と意見交換する機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は、ご本人や家族の希望される医院にして頂いてます。通院介助は家族の協力により行ってます。生保の方は職員で対応させて頂いてます。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や行動の変化に気を付け早期発見、対応に心掛けています。変化のあった場合はバイタルチェックを行い、適正に受診等対応させて頂いてます。。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、安心して治療出来るようご家族の相談に応じています。また病院関係者との情報交換にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	万が一に備え、ご家族や、キーパソンの意向を聴取させて頂いています。ご本人やご家族の意向に沿った終末期を過ごしていただけるように医療機関と連携を図りチームで支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いろいろな場面を想定して日々の業務の中で起こり得る事故、急変等に対して、初期対応の仕方、応急処置の仕方を定期的実践、訓練して確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害等の災害に対し、消防署の協力の下、昼夜を想定し訓練している。訓練内容を推進会議等で地域の人々とも共有しています。また、職員間でも役割分担をし、利用者が安全に避難できるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の性格、人格を理解し 穏やかに優しく寄り添うように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望をくみ取り、利用者様に寄り添った介護が、実践できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や心身状態を把握し、ご本人の生活リズムに添った過ごし方を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみや、お洒落が出来るよう支援し、移動理容を利用して気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つです。普通食、刻み食など一人ひとりにあった食事を温かくして提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量を記入しています。おやつ時には好みの飲み物を出し、飲んで頂けるよう声かけをしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けと、必要に応じて介助をしています。ご本人の力に応じた口腔ケアをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、尿意間隔を把握しています。適切な声掛け、誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便ができるように、水分、運動、食べ物によって予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	袖湯、しょうぶ湯など、季節感を味わってもらえるよう工夫しています。利用者様ご本人のペースでゆったりと入浴して頂ける様に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、お茶を飲んだり談話したりして、気持ちよく入眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は名前の確認後、ご本人に手渡し、確実に服薬できたか確認しています。常時、体調観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々の生活歴や力を活かし、その人の出来る事を役割として生活に張りを持ってもらうように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は外でのラジオ体操や、散歩など気分転換の機会としている。桜、紫陽花、銀杏などの花見に出かける支援をしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金を施設で預かり管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話を希望される利用者は、スタッフが傍につき利用して頂いています。手紙のやりとりは活字から離れている為、施設からのお便りとして支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為に、フロアの壁に飾り付けや写真などを張り付けたり花を飾ったり、居心地よく過ごせるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルやソファの配置に考慮して気の合った人と談話したり、テレビを観たり歌を唄ったり、思い思いに過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物を持って来て頂き、生活の延長をして頂き、居室には手作りの作品、家族の写真を飾ったり、居心地よく過ごせるように良い空間を提供しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に努め、フロア内を自由に安全に歩行できるスペースを作っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム尾西蓮池の家 3号館		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	令和2年7月30日	評価結果市町村受理日	令和2年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jiyosyoCd=2373700315-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	令和2年9月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>“・外出支援で喫茶店や買い物、散歩など利用者様の意に沿った支援を行っています。 ・お食事は3食手作りで皆様方、楽しみにされています。 ・カラオケの設備があり、2号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく穏やかで静かな理念に沿った、家族的な介護を目指しています。 ・定期的にイベントを開催しています。”</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>新管理者となって事業所だより(蓮池だより)が手書きからパソコン制作となるなど小さな変化はあるも、8年勤務で本事業所のことを知り尽くしているだけに概ね変わらずこれまで通り穏やかな様子が覗えます。職員は准看護師が3名、計画作成担当者6名、介護福祉士も多数いますが、年齢は20～30代が僅かに3名、大半が50～70代で最高齢は78歳です。イベント係、朝食献立係、物品請求係など役割を決めており職員の責任を明確にさせてはいますが、年齢からの体力不足や勤務経験の長さなどから利用者本位に尽くせない面があることは課題として明確なため、職員の自省と管理者の手腕によりさらなる前進が期待されます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し、実践に向けて日々取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の畑の方と気軽に会話し、時には作物の差し入れがあります。中学校、地域の行事にも参加しています。ボランティアの方々に参加協力して頂いて、地域交流拡大を続けます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援を地域の人々が気軽にホームにみえる様に日頃の行事を通して顔なじみになり知って欲しいです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の近況報告や検討事項の経過報告を行っています。施設の看護師や消防署の訓練講話、認知症高齢者医療等職員が研修講師となって更なるサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所を訪ね、市町村の担当者と情報交換や入居者の相談を市に訪問して話し合う協力体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は共有意義の基に身体拘束しない介護を全職員に周知し意識し実地しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で、虐待が見過ごされる事がないよう職員同士で話し合い、注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修に参加し、学んだことで職員会議で発表し、日頃の介護に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約する際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族や利用者様からの、意見や要望があった時には、管理者と職員は解決に向けて取り組んでいます。ホーム便りに利用者の消耗品の購入を依頼し家族の訪問の機会を作り意見を収集しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼・月1回職員会議で出た意見や個人的な提案を聞いて運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た意見や提案等を聞いて、各自向上心を持って働ける様に職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度法人が開催するAA課程や外部の研修に参加したり、職員間で話し合ったりして一人々のケアを理解してもらう様に、丁寧に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループの、稲沢 重本の家と交流を図り、研修会議等に参加して情報交換を行っている。月に1度の法人の研修に参加して他施設の職員とも交流しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状態を把握するよう努めている。職員が本人に受け入れてもらえる様に、困った事・不安・要望を聞き、関係作りに関心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めている事を理解し、事業所としては、どのような対応が出来るか、管理者が適切に対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い・状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合、可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、穏やかで活気のある生活が出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら利用者様の日々の生活の様子や職員の思いを伝える事により本人を支えていく為の、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人・友人などが会いに来て頂けるのが困難な状況なので、ホームを訪ねる方々には、利用者様と寛いで過ごせるように呈茶など受け入れの対応に配慮して関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	通常時は全館で午前中はラジオ体操・歌を行い午後からはカラオケ等レクリエーション、外出支援を職員も一緒に行い利用者同士の関係が円滑になる様に働きかけています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も、気軽に遊びに来て頂けるよう、相談や支援に努め、継続的な付き合いが出来る様に心掛けていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	支援の中で利用者様の意向を把握した時には、詳細記録に残し意向に沿えるか等、話し場を設け介護に反映できるよう検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に昔の話を聞いたり、ご家族に同居、訪問時に話を聞いて、その情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の状態の把握に努め、日常生活の中で可能性を探り出し、伸ばす方向に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今の生活をより良くするためにご本人や家族、その人に関わりを持つ人たち意見を聞き、現状に添う様に担当者会議を開き、見直しを行い、介護計画を立てます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に介護記録をつけ、気づきがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に介護記録をつけ、気づきがあれば詳細記録に残し、職員間で情報を共有しています。また、共有した情報をもとに、介護計画に反映させている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様が安心して暮らしが続けられる様に、運営推進委員会を2か月に1度開き、区長・民生委員・市の職員と意見交換する機会を設けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係が築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医は、ご本人や家族の希望される医院にして頂いてます。通院介助は家族の協力により行ってます。生保の方は職員で対応させて頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や行動の変化に気を付け早期発見、対応に心掛けています。変化のあった場合はバイタルチェックを行い、適正に受診等対応させて頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、安心して治療出来るようご家族の相談に応じています。また病院関係者との情報交換にも努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	万が一に備え、ご家族や、キーパソンの意向を聴取させて頂いています。ご本人やご家族の意向に沿った終末期を過ごしていただけるように医療機関と連携を図りチームで支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いろいろな場面を想定して日々の業務の中で起こり得る事故、急変等に対して、初期対応の仕方、応急処置の仕方を定期的実践、訓練して確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、風水害等の災害に対し、消防署の協力の下、昼夜を想定し訓練している。訓練内容を推進会議等で地域の人々とも共有しています。また、職員間でも役割分担をし、利用者が安全に避難できるように努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今迄築き上げた生活や、思い等を尊重し、尊厳を傷つける事の無いように利用者の立場に立って声掛けや、対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の些細な話にも耳を傾けています。本人の希望等に対してご自身の意志で動けるように努めさせて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中でその人らしく生活が出来るように職員も心にゆとりを持ち利用者の声には耳を傾け、少しでも希望に添えるように支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	TPOに合わせて、またその人の希望に沿った身だしなみを提供できるように支援しています。ご自身で出来る事は行って頂き心の肥やしになるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行っていただいています。今迄培ってきた能力を出していただけるように味付けや盛り付けにも意見を頂き、食事に対して一層興味や楽しみにつながるように支援させて頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お食事は運動量や、長事形態の工夫をして提供しています。食事摂取量の確認も行っています。水分摂取はなかなか難しいですが食事時、間食時以外にも起床時、入浴後、就寝前にはスポーツドリンクを摂取していただくよう提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長後には声掛けを実施し、個別に口腔ケアを行っています。今ある機能を損なうことなくご自身で出来る事はゆっくりとペースに合わせて行うようにしています。また出来ない方には歯科医から指導を受け対応をさせて頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄機能を低下させることなくお一人毎の排泄パターンを職員で共有しています。必要に応じ声掛け、誘導介助、排泄介助をしています。おむつ使用の方に対しては、おむつの使用パターンを考察し、最小限に努めるようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように水分摂取や食事形態、排便促進体操や、腹部マッサージ等行っています。便秘が続く場合は看護師、往診医の指導の下、服薬等随時対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や、往診等で入浴日は固定になっています。入浴の際は、ゆったりと心と体を休めて頂けるように支援させて頂いています。またスタッフと一緒に歌を歌ったり利用者に合わせて支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣に沿った対応をさせて頂いています。行事や、日中活動を工夫し提供させて頂き活動量を増やすことにより、夜間もゆっくり休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が利用者の服用薬の理解をしています。誤薬や飲み忘れ、のみこぼしが無いように名前の確認後、口腔内に入れるようにし、内服確認を行っています。体調変化の見られた場合は医療機関に迅速に報告し、指示をあおいでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前の生活習慣で培って見えたことを取り入れて個々にあった支援をさせて頂いています。趣味や、軽作業をしていただき役割を見つけ、生活に張り合いを見いださせて頂くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか難しい事ですが、季節や、体調、職員の体制に応じ外出支援をさせて頂いています。近隣には桜やイチヨウ並木があり時期が来るとご家族と一緒に散歩しています。近隣の神宮のパレードや、子供獅子の訪問もあり地域の方々との交流もしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で個人での金銭管理は難しいため施設管理をさせて頂いています。外出や必要に応じ職員とともに支払い時の計算や支払いをしていただいています。ご本人の希望や能力にあった支援に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の意見を尊重して不穏な場合や希望時には電話対応をさせて頂いています。また毎月施設より、その月の様子、体調、行事等記載してお便りさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間を快適に過ごしていただけるようにトイレ・居室・風呂場等、場所の把握がしやすいようにマークを大きくしたり文字を大きくしたり工夫しています。また季節を感じられるように掲示物も一緒に製作して生活空間を明るく、楽しく、心和むように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアで食事をされる際の場所の固定を行い、気の合った方たちと楽しく過ごせる空間づくりに努めています。また決まった場所があることで安心してお一人でもフロアで過ごせる場所の確保作りをしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にそれまでの生活の延長となるように馴染みのものを持参していただいています。生活の場が変わっても馴染みの物に囲まれて安心して生活していただけるように、落ち着いた生活空間作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今ある機能を低下させることなく、また安心して生活していただくように空間づくりや、日々の日課の確認をおこない一人で行動ができるように支援させて頂いています。		